

森林の大切さを再認識した講演会

11月18日、町主催による「深浦町森林講演会&演奏会」が町民文化ホールで開催され、町内外から約50人が参加しました。

町が森林をテーマとした講演会を開くのは今回が初めて。近年の豪雨などの気象災害を引き起こす原因は気候温暖化が大きく影響していると言われており、二酸化炭素を吸収する森林は「ストップ地球温暖化」に大きな役割を果たしています。

第一部では、津軽森林管理署の佐藤智一署長が「こんなにすごいぞ！森林のチカラ」と題して講演。「土砂災害の防止や水源涵養など森林は多くの役割を持っており、緑の社会資本と呼ばれる。これを維持するために植栽、間伐、主伐という森林の循環利用が大事」とお金に換えられない森林の価値を述べられました。

続いて、秋田県にある鳥海山木のおもちゃ館の佐藤剛館長が「鳥海山木のおもちゃ館を拠点とした木の活用と取組み」と題して講演し、「小学校が廃校となつて、木に親しむ木の場」に生まれ変わった。国文化財でもあるこの施設を住民総出で支えてくれる」と木育による幼児教育だけでなく木が人のつながりを生んでいる状況を紹介しました。

第二部では、青森市でフルート教室を主宰するとともに、県内を中心にコンサート活動する野崎琴美さんにより、トトロの挿入曲「風の通り道」など6曲がフルートで演奏され、会場いっぱい美しい音色が響き渡りました。

参加者からは「森林や木のありがたさがよく分かった」「フルートの優しい音色に心が安らいだ」などの感想がありました。



クマ被害の未然防止に向けて

9月以降、クマの目撃情報が町内各地で急増したことから、11月8日、町や警察署、消防署、猟友会の関係機関によるクマ対策会議が開催されました。

会議では、クマの目撃情報が町や消防署に寄せられた場合、クマの出没地区及び両隣りの地区に防災無線で注意を呼びかけるとともに、町農林水産課が花火で追い払い、警察官も付近をパトロールすることを確認しました。

また、同じ場所にクマが出没する場合はワナを設置することや、銃の発砲は日の出から日没に限られるとともに住宅密集地などでは発砲できないこと、人身被害発生など逼迫した状況以外では警察官の発砲許可がないと使用できないことなど、関係法令も確認しました。

町は、エサを求めて柿や栗の木にクマやサルが寄ってきますので、これらを放任しないよう注意を呼びかけています。



大雨災害に対する寄附をいただきました (10/30)

明治安田生命から深浦町へ令和5年7月の大雨災害に対する寄附金が贈呈されました。

明治安田生命では「私の地元応援募金」として、従業員募金と会社からの寄附を合わせたものを、支社・営業所等が日頃お世話になっている自治体などへ寄附しています。今回は今年7月に大雨災害への見舞金として、深浦町へ寄附いただきました。

吉田町長へ目録を手渡す明治安田生命青森支店：浅野部長



高校生から深浦町へ災害見舞金 (11/1)

むつ工業高等学校から深浦町へ今年7月の大雨災害に対する災害見舞金が寄附されました。

これは10月22日に開催された同校の文化祭において、当町で今年7月に発生した大雨災害による被害に対して、生徒や教師が募金活動を行い集まったお金を災害見舞金として寄附いただいたものです。

文化祭での募金活動の様子

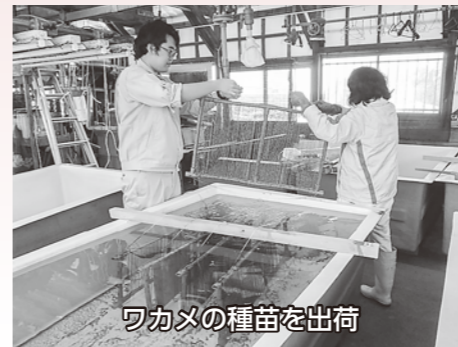


大きく育て！深浦ワカメ

町が生産した養殖ワカメ用の種苗を11月9日、深浦漁業協同組合に出荷しました。

この種苗は、5月に深浦町海藻類採苗センター（吾妻沢）で、漁協から提供されたネカブから出た胞子を専用の糸に付着させたもの（種糸）を、芽が5mmくらいになるまで約半年間水槽で培養したものです。夏の猛暑で水温が上がりがり生育が危ぶまれましたが、無事たくさん種苗を確保することができました。

深浦漁協職員は「魚の漁獲量が減少する中、このような養殖は重要な所得向上につながってほしい」と話していました。今後、ワカメの種糸は、漁業者によってロープに巻かれて海で養殖され、来年の3月頃に収穫されます。深浦漁協では30年以上前からワカメ養殖に取り組んでおり、各地に出荷しているほか、活用されています。



ワカメの種苗を出荷



ワカメの芽

大きく育て！深浦ナマコ

11月16日、町は沿岸資源としてのナマコの漁獲量向上を目的に、北金ヶ沢漁港付近にある海洋牧場に7千匹、深浦港内に3千匹の稚ナマコを放流しました。

稚ナマコは、階上町の青森県栽培漁業振興協会が人工ふ化により種苗を生産し、放流サイズとなる25mmまで育成したもので、漁協の協力により船で放流場所に向かい、専用のカゴで丁寧に放流しました。漁獲に適した200gほどに育つには3〜4年ほどかかりますが、町によるナマコの種苗放流は平成30年度から実施しており、今後、ナマコ漁獲の増加と自然繁殖による資源量の向上が期待されます。

専用のカゴに入れて稚ナマコを放流する様子

